

本年も例年同様、3つのテーマでもって分科会を開催しました。

第1分科会では、昨年度も好評だった研究所に関わる若手研究者による報告を「地域における協同の再発見と再発進－国内外の取り組みから－」と題して行いました。若手の視角から注目される実践事例を通じて、生協という枠組みを超えて、より広く「協同」を考える機会としたいという狙いがありました。

第2分科会は、基幹研究会であったくらし福祉研究会の研究成果を受けて、「超高齢社会における生協の福祉の今」をテーマに開催しました。研究会で調査を行った京都、奈良、愛知の事例を取り上げて、生協に関わる地域における福祉の現状と課題について議論を交わしました。

第3分科会は、「企業の事業性と社会性の両立について考える」と題して、生協とその取引先にご登壇いただきました。SDGsが社会的に注目を集める現在、社会的な事業を営むのは決して生協だけではありません。それぞれのご苦労や、組織のあり方を越えた協同の可能性について、議論を深めることができたのではないのでしょうか。

限られた時間ではありましたが、いずれの分科会においても活発に議論が行われており、新しい気づきや認識の発展があったように思います。それぞれの成果が、参加者および各生協・組織における今後の活動につながっていくことを期待しています。

(本誌編集委員 加賀美太記)

分科会で報告・コメントをいただいた方々

第1分科会



小田巻友子氏



下門直人氏



青木美紗氏

第2分科会



中川順子氏



小原滉平氏



川口啓子氏



石丸大輔氏



上掛利博氏



向井忍氏

第3分科会



藤田康弘氏



黒崎雅人氏



村上祐一氏